

指示	宛信用	執務用	計
主	信		
外			
局			

589

宛送日 昭和42年12月20日

宛信 417 校



公 信 案

(分類)

公信 番号	北 589 号	公信 日付	昭和42年12月19日
大 臣	北 アジア局長	宛案 附創	42年12月16日
政務次官	参事官	宛案者	長
専務次官	総務参事官	電話番号	724
外務審議官	北東アジア課長		
官房長			

打

下付

受信者	厚生省公衆衛生局長	発信者	アジア局長
送付先		(希望送付日)	月 日
件名	韓国厚煤被害者に関する新聞報道について		

重北第589号

昭和42年12月19日

厚生省公衆衛生局長殿

外務省了了了局長

韓国原爆被害者に関する新聞報道について

12月2日付重北第567号及び韓国に関する原爆被害態について

在韓国本村大使宛の公信字を送付証紙付一巻の傍、本件は関和

韓国に新聞報道振付に在韓国本村大使より12月8日付政省

5831号及び報告趣の付のと同公信字および付添え別

添付弁事表を送付証紙付

付属添付

アジア局
電話

石井
公使
紀
事
書
(
付
添
付
)

東京/シ/課

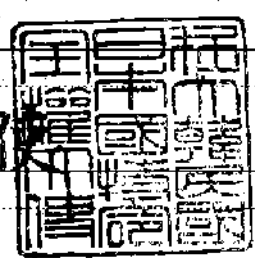
政 第 5261 号

昭和 42 年 12 月 8 日

外務大臣 殿

在 大 韓 民 國

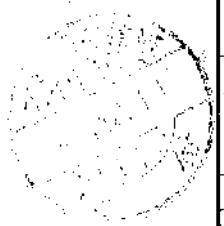
木村 大使



韓国原爆被害者に関する新聞報道

11月28日付往信政才5261号に關し

12月3日付およひ 12月5日付 韓国日報は、原爆被害者である一女性が、11月29日原爆後遺症により死んだことに関連し、韓国原爆被害者の実情に関する記事をかかげているので、同記事の翻訳および切抜きを別添送付する。



好原爆人生

264番目の犠牲者 林彩花嬢

(韓国日報 1967年12月3日付)

原爆後遺症に利 22年間 苦しんで来た

林彩花嬢(27. 蘆山区梨泰院洞164. 小統

10班)が 去る 29日 息を引き取った。84歳の

被爆傷胞の中、むしろ若くして 林嬢は

5才の時であった 1945年8月6日、日本広島市

比呂美町3丁目^{比呂美町}の細路で 毎日を遊んで来た

時に ^被原爆~~に~~、軽い火傷を受けて以来、^放戻

射能に汚染，同年の10月韓国に帰つた
 時，これら異常はたかたか17才の頃の原子病
 精神症状があらわれ ~~類~~^{ゆがみ}はじめた。

林嬢の家族も放射汚染，現在病気に
 のついで。原爆が敵に若さを奪われ，遂に死
 んで行った林嬢の物語は次の通りである。

終戦の年の10月，故郷の忠南扶餘に帰つて
 来た林嬢は次の年春，大田宣化国民学校に入
 学，年が経つたれ成績が落ち，2度も再修学
 した並外れに運動に興味を持つ林嬢は
 3才の時，父の修理技術工に勤めたと父の

バレー入部。その後、明星女子中学校へ入学、バレー

ボールを習い初め、1年も経たぬうちに、学校でも有

名選手に選ばれた。1年9月の2-1戦を著し

全国大会に出戦、名を轟かし、優秀賞をもらった

ことが12回だけあった。しかし、高校1年のときの

57年10月、林嬢は突然、~~急死~~ ^{急病} 寝込んでしまった。
急病し

林嬢の父母は、単純な風邪だとおもって

^{毎日の} ^{静に} ゆつかり休んで、~~安静~~ ^{安静} にとおもって、

ところが、10日が経つと、14日が過ぎると、林嬢の

病勢は、ますます悪化、意識を失って、全く

回復しない。有名な医者と、この医者は、お母さん

姉が「過第に風邪が^{重なる}~~重なる~~、と云う大けであつた。

~~姉~~の間に林嬢の身体に とろとろ 汗かきに

似た痒疹が 出はじめ、~~汗~~汗も 解たぬうちに 足の

部分^{アト}が 膿んで崩れた。全身が 腫れるが 原爆症

状が ある 次だ。学校を 休む 仕方が つか

た。林嬢の 身体症状は 日に 増え 治し難く

なつた。64年の 春からは 精神錯乱症状が ありゆい

脱水現象が^{ツキ}~~ツキ~~ 極度の 身体が 衰弱した。

林嬢の 父母は 娘を 救ふため 全国を 走

り廻り^{めぐり} 無様な 努力した。その 時の 家産は 悉く

消費に 尽き、~~家~~家岩洞の 家も 賣り拂、梨泰院の

月 2年5月20日の借家移住。

治りぬれぬていゝであ。確かな診断を出以下

す。林嬢の父母兄弟 数10名に至る 医者大

に おかひつて 哀願す。毎度毎に 医者の 診断

は違つた。林嬢が 10年間に かけ 病院 病室

から 受けた 診断は 殆ど 10種類に ^上 至る。

消化不良, 関節炎, 血液循環器障碍, 脳膜

炎, 白血球減少症, 再生不良性貧血, 精神錯乱

症候 数に 達し ほぼ ほぼ の 診断が 林嬢の 症状

に 対応した。

放射線医学を研究した 原子力院 2名の

医者が 2 週間にかけて 林嬢を 精密に 診断、
65 年の 生涯に 原子病後遺症と 呻吟 して いる
事実を 見付けた。

原子病後遺症と 診断は 出たものの どのよう
治療法は つかない。 淋しい 病床で 林嬢は 何らの
助けも 受けて いない。 29 日 原爆 人生を 終えた。

30 日 午前、 林嬢の 家族 たちは 骨ばかりが 残った
林嬢の 死体を 焼いた 後、 秋と 避難 難い 煩
悶に 胸を 痛めている。

病院の 医者 たちは 病氣で なる 1 人だけ 現象
だと 安心 させて いるが、 家族 たちにも おおむね 原力病

初期症状が ~~ある~~ ~~から~~ ~~か~~ ~~れ~~ ~~ら~~ ~~を~~ ~~察~~ ~~知~~ ~~り~~ ~~て~~ ~~い~~ ~~る~~ ~~の~~ ~~で~~ ~~あ~~ ~~る~~。
 林嬢の父 林慶次(47)をはじめ、長男 新造
 (30) 次男 新豊(26)氏等3人が 子 林嬢の
 発病当時の初期症状を感付く。身体に 斑疹
 は 未だ 出ないが、消化不良、非常に 身体が
 衰弱に到り、最近では 言語障害を兼ねて 甚い
 記憶喪失症を 苦しんでいる。

林嬢の 母親 泉石順(46)氏に 未だ
 何の 症状も ない。

林嬢の 家 未だ 何の 変化も ない 境遇 に
 未だ 苦しむ 苦痛を 追いつける 人の 5年 余 矣。

物中、~~2~~ 24名は 救護の手が届か
 ず、救われず、人死にあり。
 社会の冷遇と無関心の中で 放り出され
 大勢 捨てられ、原子病者は 4人の娘
 だけが残った。おと 264名が 22年間に
 わたって 病名を 探し求め、四方に 知らせられ
 「死んで」しまわれた。おと 原爆 人生は 大
 平洋戦争が 植付かれた 病を 中絶 治
 癒 確信 されず、娘を 失った
 林氏の 苦しみ 果てぬ。

特別保護法の設計を

1600名の「被爆会」呼びかける。

一方、林壕の死を聞いた金再根(43、^{警東}~~警東~~津浜)

205)氏等 20余名の原爆被害者大分は30日午後、

¹⁶⁰⁰被爆会員~~1600~~名の登録した被爆者援

護協会(会長津彦厚、60、^{警東}漢江路1街127)

事務局に集り、「当局は被爆者にも少し誠

意のある対策を設計してほしい」と呼びかける。

原爆協会に「おれ等」、終戦後広島・長崎

等地から帰国した^千840余名の中、300余名は生

活機能を失い、^{超24}靡人に成りかけた街頭を行儀

いまだに「~~1/200~~」の ~~半~~ ^{1/200} は今後10年も
 経たぬ中に各種の後遺症でもって生計に困るた
 りておる。

大部名の被爆者たちが脳神経障害、消化不良
 ・貧血症状を訴えておる。協会側は「政府側
 がこれに被爆者にお利おろしかたが。」と主張
 し、日本の場合の様に「原爆被害者援護」に
 おき特別法を速やかに作るべきだと語っている。

日本政府は去る4月、10余名の原爆被害者
 たちが羊島島にある日本大使館にかけつけ、「私
 の身体を斬断江くわ」の抗議デモを展演した

以上概之，日本側は「人道的面から韓国を被爆

者で臨床治療に援助する」と認得江津也 ~~と~~

~~と~~